

# ずいひつ No.149

2021年3月25日発行

## 野良猫のチビ、知りませんか？

我が家の裏庭は、祖母が亡くなってから荒れ放題になっています。そのせいで裏庭に出ることはほとんどなくなりました。人の動きが無くなったせいか、草木が生い茂って隠れやすいせいか、よく猫たちが裏庭や時には縁側まで入り込んでくるようになっていきます。

私の家の裏に住む家族が2匹の猫を飼っていて、よくうちの庭にも遊びに来ていました。茶白成猫のボスとシヤム柄子猫のチビ。はじめのうちは裏の人が、「ボス～、チビ～。ご飯だよ～！」と呼んでいるのを聞いていました。しかし、いつからかそれもなくなり、裏の家からは人の気配がなくなりました。どうやら裏の人は引っ越したようで、それに伴い、ボスを見かけなくなりました。猫達が遊びに来なくなるのは寂しいなと思っていたら……。



### ← チビがいる。

どうやらチビだけ置いていかれて、野良猫としてこの町で暮らしていたようです。最初は元の家に戻って「ご飯くれ～」(なのかは分かりませんが)と鳴き続けていましたが、そのうち諦めているようなお宅にお邪魔してご飯を食べているのを見かけるようになりました。うちもチビ立ち寄りの1軒だったので、野良猫に餌をあげて近所迷惑になってはいけなと見守るだけにしていました。チビにとって我が家はなわばりに入っているらしく、毎日のように洗濯機の横や縁側にやってきてデデ～んと寝そべり、帰り際にガス給湯器になわばりの証にマーキングをして帰るといふ凶太さを見せつけていました。初めのうちは縁側横の扉が開く度に逃げていたのが、そのうち扉を開けても微動だにせず、縁側で昼寝をしているところに人が近づいても『何か?』とこちらを見上げたまま居座るようになっていきました。あまりに平然と居座り、鳴き声などで存在の主張もしないので、朝寝ぼけたままトイレに行った父がチビを蹴飛ばしてしまう事件が起きるほどでした。(突然の感触にびっくりしてすぐに足を引くことができ、チビに怪我はないように見えたそうです。父曰く、「モフツとして暖かった」とのこと。) 我が家はみんな猫好きで邪険に扱わないのいいことに、大きな顔をしていたのかもしれない。

### それにしても、堂々と居座りすぎな気が…。→

そんなチビですが、ここ2～3年は一切その姿を見かけなくなりました。うちに遊びに来ることも、道で見かけることもありません。一度後ろ足に大けがをして、うちに避難してきたことがありました。病院に連れて行った方がいいのかと考えていると、何かを察したの

か、そそくさどこかへ行ってしまいました。初めて会ったときは小さな子猫だったチビ。最後にあった時にはもうチビなんて呼べないサイズでした。子猫のチビに出会ったとき、私はまだ高校生だったのを考えると相当なおじいちゃん猫だったのだと、いまさらながら思い知ります。父がベルトを猫じゃらし代わりに遊

んでいたときに飛び出した本気の猫パンチは、歳を感じさせないものでした。野良の世界は、過酷で厳しい環境なのでしょう。元は飼い猫だったチビですが、野良猫の多い町で立派に生き抜いていたんだと思います。もしチビが今も飼い主さん宅で飼われていたら、まだ長生きしていたでしょうか?いくら考えても仕方がないことですが。

今でも町を歩いている時に似たような柄の猫を見かけると、「今のってチビ?」と思ってしまう自分がいます。それは父も同様で、「今日、チビみたいな猫見かけた」と教えてくれます。寿命を終えたチビは、今まで以上に気ままな野良猫ライフを楽しんでいる。そう感じずにはいられません。

(チビの観察を楽しんでいた司書6年生 M)

